

## 染色体分析の報告書の見方



### Chromosome Analysis

③ Patient Name:  
④ Referring Physician:  
⑤ Specimen #:  
⑦ Patient ID:

⑥ Client #:

⑧ DOB:  
SSN:

⑨ Date Collected:  
⑩ Date Received:  
⑪ Lab ID:  
⑫ Hospital ID:  
⑬ Specimen Type:

⑭ Indication:

Metaphases Counted: 15	Colonies Counted: 15	Banding Technique: GTW
Metaphases Analyzed: 5	Number of Cultures: 3	Banding Resolution: 400
Metaphases Karyotyped: 3	Subculture: N	Dept. Section: A3

⑮ RESULTS:

⑯ INTERPRETATION:

- ① 病院名
- ② 病院所在地
- ③ 被検者名
- ④ 担当医名
- ⑤ 弊社検体番号
- ⑥ 弊社医療機関番号
- ⑦ 被検者ID
- ⑧ 生年月日
- ⑨ 検体採取日
- ⑩ 検体受領日 (弊社米国検査所)
- ⑪ 弊社検査ID
- ⑫ 病院被検者ID
- ⑬ 検体の種類
- ⑭ 検査希望理由
- ⑮ 結果 (核型の記載)
- ⑯ 結果の解釈

<b>Metaphase Counted</b>	染色体の数をカウントした分裂中期細胞の数* 例) 15: 分裂中期の15細胞の染色体数をカウントしました。
<b>Metaphase Analyzed</b>	染色体のバンドの解析を行った分裂中期細胞の数 例) 5: 15個のコロニーから得られた5個の分裂中期細胞を分析しました。
<b>Metaphase Karyotyped</b>	染色体の核型を作成した細胞の数 例) 3: 3細胞の核型を作成しました。 そのうち、最も画像が鮮明な標本 (染色体写真) を報告しています。
<b>Colonies Counted</b>	分析に用いたコロニーの数* 例) 15: 15コロニーを分析に用いました。
<b>Number of Cultures</b>	培養の数 例) 3: 3つのシャーレを用いて培養を行いました。
<b>Subculture</b>	二次培養の有無 例) N: 検査基準が満たされたため、二次培養は行われませんでした。
<b>Banding Technique</b>	検査に利用した染色体分染法 例) GTW (Giemsa Trypsin Wright): トリプシン処理後にライト・ギムザ染色し G-バンドを検出する方法を利用しました。
<b>Banding Resolution</b>	解像度 例) 400
<b>Dept. Section</b>	検査を実施した部署 例) A3

\*1 通常の染色体解析には分裂中期の染色体が用いられます。

\*2 羊水を培養すると、胎児由来の細胞1つがかたまり状に増殖し、1つのコロニーを形成します。  
分析に用いたコロの数が15の場合、胎児由来の細胞が15個あったと考えられます。